

令和4年度事業報告書

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

学校法人多摩美術大学

東京都世田谷区上野毛3-15-34

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神 2 頁
2. 沿革 2 頁
3. 設置学校等 4 頁
4. 目的・教育目標 4 頁
5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率 6 頁
6. 学部学科・専攻別進路状況 7 頁
7. 役員に関する情報 8 頁
8. 教職員に関する情報 8 頁
9. 学習環境に関する情報 9 頁

II. 事業の概要

1. 中長期計画：2020年4月1日～2025年3月31日10 頁
2. 各事務部署の取組み11 頁

III. 2022（令和4）年度 予算執行状況及び財務状況

1. 資金収支計算25 頁
2. 事業活動収支計算26 頁
3. 貸借対照表27 頁
4. 財務比率28 頁
5. 財産目録29 頁

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

本学の淵源は、1929（昭和 4）年設立の帝国美術学校にある。1935（昭和 10）年、帝国美術学校校長北吟吉は、帝国美術学校を専門学校に昇格させるため手狭な吉祥寺から広大な東京府（現在の東京都）東京市世田谷区上野毛に校地移転を計画。移転昇格派と残留派で分裂のやむなきに至るが、北吟吉、杉浦非水、井上忻治、牧野虎雄をはじめとする大半の教員と、図案科を中心とする学生らが移転。官立の美術学校にはない「自由なる精神」が生み出す美術の根源を求めて、校名新たに多摩帝国美術学校が生まれる。

以来「自由と意力」の理念の下、常に芸術の先端的な動向を切り拓き我が国の芸術文化の進展に寄与してきたのである。専門分野における高度な学理や技能のみならず、国際的な視野と幅広い教養をも身につけた人材の育成に努め、社会に新たな息吹をもたらす優れた芸術家・デザイナー並びに教育者・研究者を数多く輩出してきたことは、本学の誇りとするところである。

2. 沿革

- | | |
|--------------|--|
| 1935(昭和 10)年 | 多摩帝国美術学校を 5 年制の美術学校(日本画科、西洋画科、図案科、彫刻科)として現在の東京都世田谷区上野毛の地に創設 |
| 1937(昭和 12)年 | 財団法人設立。女子部が創立され、女子の入学が許可 |
| 1947(昭和 22)年 | 専門学校令により、多摩造形芸術専門学校となり、中等教員無試験検定の指定校となる。 |
| 1950(昭和 25)年 | 旧制の多摩造形芸術専門学校に 3 年制の短期大学、多摩美術短期大学(絵画科、彫刻科、造形図案科)を併設 |
| 1951(昭和 26)年 | 学校法人に組織変更 |
| 1953(昭和 28)年 | 学制改革にともない、4 年制の新制大学多摩美術大学を開学(美術学部・絵画科、彫刻科、図案科) |
| 1954(昭和 29)年 | 川崎市溝の口校地に多摩芸術学園(2 年制 映画科、演技科)を設置 |
| 1955(昭和 30)年 | 多摩美術短期大学を廃止 |
| 1964(昭和 39)年 | 大学院美術研究科修士課程を設置 |
| 1969(昭和 44)年 | 芸術学科、建築科の 2 科増設の認可 |
| 1971(昭和 46)年 | 年次計画により八王子移転を開始。建築科開講 |
| 1974(昭和 49)年 | 美術学部の八王子移転完了 |
| 1981(昭和 56)年 | 芸術学科を開講し、美術学部は 5 科となる。 |
| 1982(昭和 57)年 | 多摩美術大学附属美術参考資料館が、博物館相当施設の指定を受け一般に公開 |
| 1989(平成元)年 | 美術学部二部(絵画学科、デザイン学科、芸術学科)開設 |
| 1992(平成 4)年 | 多摩芸術学園廃止。美術学部臨時定員増 |
| 1995(平成 7)年 | 大学院美術研究科昼夜開講制開始 |
| 1998(平成 10)年 | 美術学部に情報デザイン学科開設、建築科・デザイン科の改組及びデザイン科・芸術学科の定員減により環境デザイン学科、生産デザイン学科、工芸学科を開設。建築科募集停止。美術学部絵画科、彫刻科、デザイン科を絵画学 |

	科、彫刻学科、グラフィックデザイン学科に名称を変更。大学院美術研究科芸術学専攻開設
1999(平成 11)年	美術学部二部を改組し、造形表現学部（造形学科、デザイン学科、映像演劇学科）開設。
2000(平成 12)年	附属美術館を多摩センターへ移転
2001(平成 13)年	大学院博士後期課程開設。附属メディアセンター開設
2002(平成 14)年	大学院美術研究科工芸専攻開設
2005(平成 17)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、環境デザイン学科、芸術学科定員増
2006(平成 18)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科、環境デザイン学科、大学院美術研究科デザイン専攻定員増。附置芸術人類学研究所を設置
2007(平成 19)年	大学院美術研究科デザイン専攻定員増
2008(平成 20)年	美術学部生産デザイン学科定員増
2012(平成 24)年	大学院美術研究科芸術学専攻身体表現研究領域開設
2014(平成 26)年	造形表現学部募集停止 美術学部統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科を開設
2016(平成 28)年	大学院美術研究科絵画専攻日本画夜間主コース、油画夜間主コース、デザイン専攻コミュニケーションデザイン研究領域、芸術学専攻身体表現研究領域募集停止
2018(平成 30)年	大学院美術研究科デザイン専攻統合デザイン研究領域、演劇舞踊専攻を開設

3. 設置学校等

(学) 多摩美術大学 理事長 青柳 正規

多摩美術大学 学 長 建畠 哲

【所在地】

上野毛キャンパス：東京都世田谷区上野毛 3-15-34

八王子キャンパス：東京都八王子市鎌水 2-1723

学部・研究科	学科等	専 攻
大学院 美術研究科	博士後期課程	美術
	博士前期課程	絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学、演劇舞踊
大学 美術学部	絵画	日本画
		油画
		版画
	彫刻	
	工芸	
	グラフィックデザイン	
	生産デザイン	プロダクトデザイン
		テキスタイルデザイン
	環境デザイン	
	情報デザイン	
	芸術	
	統合デザイン	
演劇舞踊デザイン		

4. 目的・教育目標

[大学の目的・教育目標]

大学の目的として、学則の第一章（総則）の第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を養成する」としている。

また、大学院学則の第三条に、「芸術の技術と理論において新たな価値を創出し、社会を刷新することのできる人材を養成する」としている。

教育目標として、専門職業人、独立した作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

[大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標]

社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻 1 専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

[大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標]

美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、1964年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、1998年に芸術学専攻、2002年には工芸専攻を開設して、1研究科5専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。

[美術学部の目的・教育目標]

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会の現実に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人にとどまることによって達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の2つの特徴が挙げられる。

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫かれた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。

また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率

【大学院】

2022(令和4)年5月1日現在

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率	
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画	日本画	43	86	94	109.3%	
			油画 版画					
		彫刻			10	20	20	100.0%
		工芸	陶	9	18	22	122.2%	
			ガラス 金属					
		デザイン	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン 統合デザイン	62	124	150	121.0%	
	芸術学	芸術学	5	10	7	70.0%		
演劇舞踊	演劇舞踊 劇場美術デザイン	8	16	4	25.0%			
小計			137	274	297	108.4%		
	博士後期課程	美術		5	15	16	106.7%	
合計				142	289	313	108.3%	

【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率	
八王子	美術	絵画	日本画	195	780	(163)	108.6%	
			油画 版画			(542) (142)		
		彫刻			30	120	142	118.3%
		工芸	陶	60	240	246	102.5%	
			ガラス 金属					
		グラフィックデザイン			184	736	778	105.7%
		生産デザイン	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	104	416	449	(266) (183)	107.9%
		環境デザイン			80	320	343	107.2%
情報デザイン	メディア芸術 情報デザイン	122	488	586	120.1%			
上野毛	美術	芸術		40	160	191	119.4%	
		統合デザイン		120	480	531	110.6%	
		演劇舞踊デザイン		80	320	295	92.2%	
合計				1,015	4,060	4,408	108.6%	

()内は専攻内数

総計				1,157	4,349	4,721	108.6%
----	--	--	--	-------	-------	-------	--------

6.学部学科・専攻別進路状況

2023(令和5)年3月31日現在

大学院	修了者	内女子	就職希望者	内女子	就職者	内女子	進学者	内女子	その他※	内女子
絵画	44	34	22	20	18	16	3	0	23	18
彫刻	7	2	5	1	5	1	1	0	1	1
工芸	8	5	5	5	5	5	2	0	1	0
デザイン	76	55	51	35	34	24	5	5	37	26
芸術学	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
演劇舞踊	3	3	2	2	2	2	1	1	0	0
美術(後期課程)	2	2	1	1	1	1	0	0	1	1
合計	141	102	86	64	65	49	12	6	64	47
修了者に対する割合					46.1%		8.5%		45.4%	
就職内定率(就職者÷就職希望者)					75.6%					

美術学部	卒業者	内女子	就職希望者	内女子	就職者	内女子	進学者	内女子	その他※	内女子	
	200	153	87	71	73	59	53	39	74	55	
絵画	日本画	38	34	17	16	15	12	10	10	9	
	油画	125	91	57	43	35	25	19	53	37	
	版画	37	28	13	12	10	16	10	11	9	
彫刻	37	21	13	7	10	5	8	5	19	11	
工芸	69	60	36	33	32	30	11	9	26	21	
グラフィック	184	141	133	109	114	34	12	7	58	40	
生産		110	79	82	61	50	5	4	37	25	
	プロダクト	61	37	52	34	30	0	0	16	7	
	テキスタイル	49	42	30	27	20	5	4	21	18	
環境	77	46	41	29	37	28	12	7	28	12	
情報		146	101	85	64	54	16	10	65	37	
	メディア芸術	73	52	45	36	30	8	5	29	17	
	情報デザイン	73	49	40	28	24	8	5	36	20	
芸術学	36	28	18	14	15	12	5	5	16	11	
統合	129	93	93	72	70	55	6	3	53	35	
演劇舞踊		75	63	33	31	27	4	3	42	33	
	演劇舞踊	45	35	10	10	10	10	3	2	32	23
	劇場美術デザイン	30	28	23	21	17	17	1	1	10	10
合計	1063	785	621	491	513	354	132	92	418	280	
卒業生に対する割合					48.3%		12.4%		39.3%		
就職内定率(就職者÷就職希望者)					82.6%						

※その他には、作家(希望者を含む)、留学(準備者を含む)、帰国(留学生)等を含む。

7. 役員に関する情報

2022(令和4)年5月1日現在

役員(12名)		評議員(21名) (五十音順)	
理事 10名		評議員	青柳 正規
理事長	青柳 正規	評議員	飛鳥田 一朗
理事(学長)	建畠 哲	評議員	安次富 隆
理事	飛鳥田 一朗	評議員	安楽 康彦
理事	川上 典李子	評議員	井上 雅之
理事	小泉 俊己	評議員	大貫 卓也
理事	田淵 諭	評議員	岡村 桂三郎
理事	常盤 豊	評議員	楠 房子
理事	深澤 直人	評議員	久保田 晃弘
理事	渡邊 敏	評議員	小泉 俊己
理事	和田 達也	評議員	忠政 重信
		評議員	建畠 哲
監事 2名		評議員	田淵 諭
監事	荒川 直	評議員	深澤 直人
監事	中元 文徳	評議員	古谷 博子
【参考】 理事定数 7~10名 監事定数 2~4名 評議員定数 21~23名		評議員	松浦 弘明
		評議員	水上 嘉久
		評議員	宮 いつき
		評議員	諸川 春樹
		評議員	山下 恒彦
		評議員	和田 達也

8. 教職員に関する情報

2022(令和4)年5月1日現在

教員数 (本務者)		教員数 (兼務者)	
学長	1名(0名)		
教授	105名(26名)	客員教授	69名(21名)
准教授	14名(1名)		
講師	12名(4名)	非常勤講師	439名(156名)
学部助手	43名(22名)		
大学院助手	4名(3名)		
合計	179名(56名)	合計	508名(177名)

()内は女性教員内数

◆教員の保有学位・実績等：多摩美術大学教員業績公開システム <http://faculty.tamabi.ac.jp/>

職員数	188名(111名)
-----	------------

9. 学習環境に関する情報

上野毛キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
	[主な交通手段] 東急大井町線「上野毛駅」下車、徒歩 3 分 東急田園都市線「二子玉川駅」下車、徒歩 12 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本館、1号館、2号館、3号館、講堂、図書館、A棟、B棟、 演劇舞踊スタジオ、食堂棟 Mensa、教室棟 Cube

八王子キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都八王子市鎌水 2-1723
	[主な交通手段] J R 横浜線・京王相模原線「橋本駅」下車、神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」8 分 J R 「八王子駅」下車、京王バス「多摩美術大学行」20 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本部棟、絵画東棟、絵画北棟、彫刻棟群、工芸棟群、デザイン棟、テキスタイル棟、情報デザイン棟・芸術学棟、共通教育センター、 図書館、メディアセンター、レクチャーホール、アートテーク、グリーンホール、体育館、T A Uホール、工作センター、第二工作センター、 学生クラブ棟、画材店
[運動施設の概要] 体育館、グラウンド、テニスコート	

[学外施設] <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生寮「多摩美オリーブ館」（東京都町田市） ・ 複合施設(予定)（東京都町田市） ・ 大学附属美術館（東京都多摩市） ・ 富士山麓セミナーハウス（山梨県） ・ 奈良古美術セミナーハウス（奈良県） ・ 情報発信拠点「アキバタマビ 21」（東京都千代田区） ・ 情報発信拠点「T U B (Tama Art University Bureau)」 （東京都港区）

[附置研究所] <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術人類学研究所（八王子キャンパス）

II. 事業の概要

1. 中長期計画：2020年4月1日～2025年3月31日

(1) 教育及び研究体制の整備と再点検

- ①大学基準協会の認証評価に指摘されている改善事項への取組（2022年度中を目途）
- ②STEAM教育の一翼を担うことを念頭においた教育体制の整備（5年以内）
- ③研究論文の増加のための施策 目標 50件（5年以内）

(2) 学生受け入れ態勢の強化

- ①キャリアセンターの充実による就職率のアップ
（就職内定率 87%以上、2023年度までに90%以上）（3～5年以内）
- ②安定的な入学者獲得に向けた入試制度の検討、見直し（3～5年以内）
- ③学生相談等の充実（3～5年以内）

(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成の環境整備

- ①英語を主としたネイティブスピーカーの採用（3～5年以内）
- ②外国語に接する機会を増やす環境づくり（3～5年以内）

(4) 国際交流の推進・制度化

- ①海外大学への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ等の増加（5年以内）
- ②新規海外協定校の増加（3～5年以内）
- ③学生が留学しやすくなる制度設計（3～5年以内）
- ④国際交流センターのサポート体制の充実（3～5年以内）

(5) 専門性と総合性の融合を目指した改組による教育改革

- ①教育課程、教育方法、FD等の改善充実（5年以内）
- ②学科の改組と入学者選抜の検討及び独立大学院の検討を含む大学院改革に対応した、全構成員の協働による「教育改革アクションプラン（仮称）」の策定と推進（2022年度中を目途）

(6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備

- ①上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携（5～7年以内）
- ②オンライン教育充実のためのネットワーク整備（2022年度中を目途）
- ③八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行（5～10年以内）
- ④共通施設の充実と利用しやすさの推進（3～5年以内）
- ⑤学生寮建設後の運営体制の確立と充実（3～5年以内）

(7) 社会・地域連携の拡大

- ①産官学の連携により、SDGs等の社会課題解決に貢献（3～5年以内）
- ②自治体、地域の自治などの課題解決（3～5年以内）
- ③社会人の学び直しに対応した教育の提供（3～5年以内）
- ④発表・創作活動の活性化（3～5年以内）

⑤事業法人を設立し、大学業務の支援体制を構築（2022年度中を目途）

(8) 美術大学の教育及び研究内容の社会伝達と浸透

①21世紀の美大イメージの確立（3～5年以内）

②教育研究内容の積極的なPRによる存在意義の浸透及びブランディングの確立（3～5年以内）

(9) 管理運営の強化

①事務組織の見直しによる新しい体制の確立（2022年度中を目途）

②評価制度の導入（3～5年以内）

③魅力ある職場づくりによる多様な人材の確保（3～5年以内）

④定期的な異動、評価制度の見直し、専門職などの人事制度の確立（5年以内）

⑤各委員会組織の権限・位置等の再点検（2022年度中を目途）

⑥財務の継続的な安定と、収入の基盤強化（資産運用収入、寄付金収入の100%増）（5年以内）

⑦クラウドファンディングなどの導入による研究活動資金の持続的な獲得体制の推進（5年以内）

⑧予算制度の見直しとPDCAサイクルの確立（5年以内）

⑨危機管理体制の確立（2022年度中を目途）

⑩情報共有化に向けた学内体制の検討（3～5年以内）

⑪規程の再点検（3～5年以内）

2. 各事務部署の取組み

(1) 教育・研究運営面の推進計画

◆教務部

【教務課】

①第3期認証評価への対応

認証評価の実地調査等について十全の対応を行うことができ、大学基準に適合している認定を受けた。

②リベラルアーツの見直し・充実

「リベラルアーツセンターに係る長期的な方針（分野と人員配置）について」を取りまとめ、科目配置領域を見直し、開講科目案の策定を行った。

実行を向けて引続き取り組む段階に進むことができた。

③大学院の見直し・充実

大学院教員の授業担当の見直しについて、案を策定した。

共通選択科目の見直し・充実について、一部科目の新規投入ができた。

特定生制度の提案について、理事会へ提案を行うことができた。

【入試課】

①入学者選抜の制度を整備し志願者の確保につなげる（継続）

一般選抜においては、109.0%の志願者増を達成し2年連続の増加となった。

大学院博士前期課程（修士）選抜と外国人留学生選抜においては、コロナ禍以前の志願者数を上回っており今後も志願者の増加が見込まれるが、外国籍の志願者増加に伴い、出願資格の見直しを継続的に実施していく必要がある。

②学生募集及び入学者選抜の解りやすい情報提供の改善（継続）

学生募集要項の構成見直しを行い、ページ数の削減を実施した。

「入試問題集」「入試ガイド」についても、編集方法の見直しを実施した。

受験生に「入試事前案内」をマイページ（web出願サイト）で案内できるように改修した。

合格者に「入学手続要項」を大学HPから案内することにした。

③新型コロナウイルスなどの発生時の入試体制・運営方法の見直し

新型コロナウイルスについては、昨年までの経験を活かし継続して対応した。

今後は、コロナ禍の対応を纏め緊急時対応マニュアル等の作成を進めていく。

④特別選抜、大学院選抜の運営を再検討（継続）

改善点の見直しを行い、問題なく実施できた。

来年度は暦（曜日）の関係で、各選抜の出願から合格発表までの期間が短くなるので試験日程の調整が必須である。

【研究支援課】

①学内研究活動の活性化と情報公開促進（継続）

産学官共同研究については、コロナ禍による減少傾向が続いた。

学内における共同研究については、新規応募件数が前年度3件から7件に増加し、科学研究費助成事業や国の大型研究費を見据えた研究計画、若手教員主体の研究計画もあるなど、大きく活性化した。

研究成果の発信強化として、コロナ禍の影響で延期となっていた、ひらめき☆ときめきサイエンスを実施した。

②競争的資金獲得のための支援強化（継続）

若手教員を中心に、科学研究費助成事業の申請を希望する教員への事務職員による支援、今年度立ち上げたアドバイザリーボードによる相談会の実施、産学連携事業の申請、ヒアリング審査の支援などを実施した。

また、昨年度同様、外部業者による支援サービスを活用した。

申請件数については、科学研究費助成事業の学内における研究代表者が増加したこともあり、継続的に申請できる教員が減ったため微減となった。

③公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）と不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく体制整備の促進（継続）

以下について実施した。

- ・不正使用の事前防止のための体制整備
- ・研究費に関するルールの周知徹底、事例集の整備
- ・研究推進会議の定例化による問題点の検討
- ・教員と学生への研究倫理教育
- ・前年度内部監査の指摘事項改善

・コンプライアンス研修会、研究倫理研修会の開催
研究倫理教育では、学生向けの研究倫理に関する研修会の動画をCampusSquareから閲覧できるようにした。

◆学生部

【学生課】

①新型コロナウイルス収束を意識した学生支援体制

部門間で頻繁に連携を取り、学生との協働を心掛けた。

クラブ・サークル活動においては、段階的に活発化できるよう支援した。

芸術祭においても学生と協働し、3年ぶりに対面で開催した。

②休退学率の減少

退学理由の分析に力を入れ、研究室と問題点や改善に向けた取組みを共有した。

申し出時にも学生と丁寧に向き合うことで、最善策の提案に努めた。

③学生寮（オリーブ館）の円滑な運営

入寮から初めて2年満期を迎え、課題もあったが丁寧に対応し解決することができた。

RA（レジデント・アシスタント）が発足して以降、自治活動が機能し、学生の成長、協調に繋げることができた。

④学生相談・障がい学生の合理的配慮の検証と充実

学生相談及び合理的配慮については、部門間の連携による検証も含め機能した。

学生が満足できる解決及び合理的配慮を念頭に、丁寧に向き合うことができた。

【奨学課】

①学内奨学金制度・授業料減免制度を整備する

学生目線に立ち、世情や他大学の現況を視野に入れて学内奨学金や授業減免がどうあるべきかを討議し、シミュレーションを重ね体制を整備した。

②次年度からの学内の奨学金・授業減免について学内外に向けて広報する

奨学金・授業減免を必要とする学生や保証人に向け、学費の捻出に影響しないよう早期から案内した。

③ワークスタディ奨学金を円滑に運営する

業務時間の達成が危ぶまれたケースもあったが、学生の公平性を重視した対応を取ることによって遂行できた。

④学生へのわかりやすい説明を心がけ、また利用しやすいようにカウンターやオンラインの環境を整備する

奨学課の窓口、書類やファイル、ロッカーなどをより機能性が増すように整理した。

学生へのスムーズな対応が浸透、定着した。

◆国際交流センター

①新規海外協定校の増加（継続）

2022年度内の協定締結が間に合わなかったが、2023年度にLondon College of Fashion（イギリス）と交換留学協定締結を合意した。

②提携校への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ増加（増加）

アートセンター（アメリカ）の学生を4年ぶりに受け入れて、パシフィックリムプロジェクトを実施した。

コネクティングウールプロジェクトを11、12月にオンラインで、3月に日本で対面で実施し、ノルウェー大使館で最終発表会を行った。

2年ぶりに交換留学生を24名受け入れた。また、ウクライナ支援学生を3名受け入れた。

③学生が留学しやすくなる制度設計（継続）

留学希望者が国際交流センターに集まり学生同士で英会話や留学相談を自主的に実施している。

留学ハンドブックに新たに留学体験談やポートフォリオ制作のポイントを掲載し、海外留学に必要な情報を追加した。

④サポート体制の充実（継続）

外国人留学生と確実に連絡が取れる体制を築いた。

学生相談窓口として「国際交流センター相談予約フォーム」を本学webに設置した。

外国人留学生向けの情報をまとめ、本学webに掲載した。

⑤外国語に接する機会を増やす環境づくり（継続）

学生に対する英語検定試験受験料の一部補助を実施した。

自主的な勉強の場として、また雑談等ができるスペースとして国際交流ラウンジを開放した。

◆キャリアセンター

①キャリア支援の多様化

4年生のキャリア支援システム「タマキャリ」の登録率は77%に達した。

アーティスト支援講座として税金について学ぶ講座を開催した。卒業生の参加も可とし校友会との連携も図った。

②教員との連携強化（継続）

社会から求められている業界・職種に応じ強みのある教員と連携し、カリキュラムにも踏み込むことができた。

③キャリアセンターの認知度向上

多様なガイダンスを実施し「キャリアセンター＝就職だけ」のイメージを払拭した。

キャリアセンター自体の広報活動を開始し、入り難いイメージをなくすよう努めた。

④外国人留学生への進路・就職支援、配慮を要する学生への進路・就職支援（継続）

コロナ禍における外国人留学生の日本語力の低下などについて、関係部署と課題を共有し、支援方針を検討するまでには至らなかったため、引き続き継続課題としたい。

◆附属図書館

①中長期的な新しい図書館像の検討（継続）

卒業生の利用条件をコロナ禍前に戻した。

一般学外者の利用、見学、撮影について新たなルールの検討を行った。

入館者数の伸びと貸出冊数の伸びが比例していないことが課題である。

②サービス

対面のサービスを復活しつつオンラインと併用し、学生の利便性の向上を図った。
展示による所蔵資料の紹介、授業連携が利用者に定着してきた。

③発信と協働・連携

LINEやnoteを導入し、学生への発信を強化した。
言語と美術コレクションについて3月にデータベースを公開した。
選書委員会を年2回開催し教員からのフィードバックの機会を増やした。

④運営・管理

書庫狭隘化の対策として外部倉庫への預け入れを行った。

◆附属美術館

①展覧会開催（年間3本）

- ・「そうぞうのマテリアル展」 2022年 4月2日(土)～9月4日(日)
- ・「テキスタイルのチカラ展」 2022年10月1日(土)～12月25日(日)
- ・「多摩美術大学博士課程展 2023」 2023年 3月1日(水)～3月15日(水)

開館日数207日、総入館者数は6,632人だった。

②博物館実習

コロナ禍において他館での実習中止を受け、学内生95名、他大生4名の実習を実施した。
リアルなミュージアム現場の体験と学習促進のため東京国立博物館と協働しワークショップを開催した。

学内生：館務実習50日・レクチャー（オンライン）5日、計55日
任意参加ワークショップ1日（東京国立博物館 29名）

他大生：館務実習 5日

③収蔵作品調査

2020年度より開始した5ヵ年計画の3年目。作品の個別調査（開梱、収蔵位置確認、箱書きや作品への書き込み情報等の確認、作品撮影、採寸、状態確認）を行った。

美術館移転を踏まえ、点検記録項目と手法を見直し、約6,000件の作品調査を完了した。

④収蔵作品データベース構築

移転を踏まえた収蔵作品調査の見直しに合わせ（情報精査と確認に先立って）調査記録の流し込みを優先し遂行。基礎情報として約6,000件のデータを入力した。

⑤施設・収蔵環境整備

八王子キャンパス共通棟の美術館倉庫の燻蒸を行った。

外気流入による環境汚染が懸念され、各庫に空気清浄機を設置した。

美術館移転準備のため、八王子キャンパスに隣接している「複合施設(予定)」を改装して収蔵庫を設置し、美術品及び資料の移動を完了させた。

⑥教育普及活動

「テキスタイルのチカラ」展では、テキスタイル研究室との緊密な連絡及び協力を得て、本学学生の利用を促進した。

芸術人類学研究所との協働により、美大受験を目指す中高生を視野に入れたイベントを開催すると同時に、多摩地域の小中学校から団体見学を受け入れた。

多摩市内図工科教員とのネットワーク構築が実を結び、多摩市内教育機関による団体見学やアウトリーチの実績につながった。

多摩センター近隣の文化施設との協働による「わくわくびじゅつあ〜」を実施した。

東京都立大学博物館学授業（見学・講義）を協働実施した。

⑦生涯学習センター「あそびじゅつ」への会場提供

社会情勢や学内レギュレーションを踏まえた人数制限を緩和し、年度3期（春・夏・秋）に渡って実施した。

◆附属メディアセンター

①事務室

Adobe社による年2回のセミナー実施に加え、大学ホームページの利用案内を見直し、Adobe Creative Cloud利用促進支援を行った。

業界最新の情報を得る機会の創出については、アドビ社による利用促進セミナーの中でも扱ったが、今後は学生のニーズ、他業務との優先順位を検討していきたい。

②情報センター

@tamabiVer6プロジェクトについては、半導体不足による機器調達の遅れ、本学、業者、双方の技術的な要因から、年度内の完了には至らなかった。

各部署のネットワーク管理担当者(NAG)による管理体制の見直しについては、新規ネットワークがデザイン棟・絵画北棟・絵画東棟で本稼働したが、業者のサポート体制が既存ネットワークと明確に区分できないことから、検討が必要である。

③映像センター

メディアホールのトラス、照明、フェーダーの工事が完了し以前よりシンプルな操作で学生も習得しやすい環境になった。ホールを使用した授業やイベントが実施できたため、機材操作も対面でアドバイスができた。

初心者に向けた入門動画は初歩的なモデリングから中級編としてアニメーションなどを用意した。

④写真センター

ミラーレスカメラを中心に添えた貸出機材の入れ替えが順調に進み、学生の利用状況においてもミラーレスカメラが好調だった。

新たに導入したフラッシュシステムも良好な反応で、より精度の高いライティングに取り組む学生への対応が可能になった。

講習会は定例通りだが、学生個人の興味や必要に応じて随時柔軟に対応した。

例年撮影スタジオの利用者が非常に多く、新たな撮影スペースの確保を検討したい。

⑤工作センター

<八王子>

授業実習科目の担当教員との事前打合せを行うことにより、研究室と情報共有しながら、安全に運営することができた。安全対策の要である見学会や講習会等は、2022年度は年間471回（1,546名）行い、学生の安全確保の重要な役割を果たした。

また、1限～4限を利用時間とし、工作センター職員の学生対応を厚くしたことで、学生の利便性を高めた。研究室から要望があった5限以降の対応についても、研究室と連携を取

りながら計画的に進めることができた。

<上野毛>

各研究室と連携をとり、安全に運営することができた。

空圧機器の改善で安定したエア供給が可能となり、作品制作がスムーズになった。

NC工作機の学生利用実証データに研究室の要望も合わせて今後の機種選定に活かした。

⑥CMTEL

館内展示収蔵品について、素材は5社追加し、既存展示品は9点更新した。

CMTEL主催のワークショップ・イベントを12テーマ開催し（393名参加）、メディアショーケース並びにCMTEL館内での展示も積極的に行った。

学生の作品制作における相談窓口としての利用者もCMTEL所有の機材利用の利用者も増加した。（2021年度493名→2022年度609名）

また、広報ポスター（CMTEL NEWS）と2023年度パンフレットを発行した。

⑦FabCAVE

3Dプリンターでの出力・作成支援を行った。

3Dプリントを初めて体験する学生へのレクチャー、授業課題や卒制の相談対応、個人制作による個展の支援など、個別のレクチャーや指導を行った。

各部署と連携してVRコンテンツを制作した。

⑧上野毛スタジオ

2週間に1回のペースで講習会を開催し多くの学生が参加した。

順次必要な機材を揃え、スタジオと機材を整備した。

◆附属アートアーカイヴセンター（AAC）

①アートアーカイヴセンターの運営強化

学内各所と連携し、補助金申請ができる体制を整えた。

学内での公開資料を増やし、授業や研究会のサポートを行なった。

外部機関の資料活用実績や課題などの情報収集を行なった。

資料貸出し等の事務手続きの手順を整え、関係部署と役割を整理した。

資料研究者制度を活かして、関心ある教員が資料に関わりやすい環境とした。

②収蔵庫の環境整備（IPM構築）

温湿度管理データを毎日取り、カビ等の発生を抑えるため清掃をこまめに行なった。

昨年度に引続き燻蒸作業を行なった。

③各資料体の管理（保存、保全、整理、リスト作成、データベース構築、貸出し対応等）

秋山邦晴資料、勝見勝資料、山名文夫資料など、旧蔵資料の整理を進めた。

大野美代子資料と加山又造資料のデータベースを公開した。

和田誠資料をはじめ、申請あった資料体の貸出し業務を滞りなく進めた。

④活動内容及び研究成果の学内外への発信

紀要4号、英語版紀要1号を制作・発行し、HPで公開した。

AAC設立以前に大学で開催したモノ派シンポジウムの記録集を再編集し、HPで公開した。

SNSを活用しAACの活動を学内外に発信した。

学内プレゼンスを向上させるため見学会を実施した。

有観客及びオンラインのハイブリッドシンポジウムを開催し、録画映像をHPで公開した。

⑤アートテークギャラリーの管理運営

安全面、衛生面に配慮し関係部署と連携強化しながら管理運営を行なった。

各団体が次年度以降の計画を立てやすいよう、ギャラリー使用申請手続きを見直した。

◆生涯学習センター

①生涯学習プログラムの強化

特色あるシリーズ講座に重点を置き、継続的な開催に向けての運用改善を図った。

②本学の持つ潜在的な力・リソースを掘り起こし、社会・地域へアピールする場としての生涯学習事業を企画立案

新シリーズ「TAMABI トーク・ラウンジ」(TUB)では、本学教員の取組みや研究内容の発信とともに、対談形式による異分野・異なる視点から生まれる臨場感溢れるセッションにより、新たな価値創出を付加した講座提供ができた。

講義系教員と実技系教員が、理論と実践の両側面から組み立てる演習講座を実現した。

③上野毛・八王子キャンパスそれぞれの特色を生かした旗艦講座の検討

対面、オンライン、オンデマンドなど、多様な形式で講座が運営できるようになった。

『〇〇世紀の芸術家列伝』は、中町ふれあいホールでの対面の他、オンデマンド受講者の拡大により当初定員の200%の参加を得た。

オンラインでは場に縛られない展開として、全国に受講者層を拡大した。

④生涯学習センター年史(仮称)の発行

2ヵ年計画の1年目として、基礎データ整理、インタビュー収録、執筆依頼、冊子のベシックデザインの作成を終えた。

⑤活動記録を広報への活用及び連携事業等への展開に活かす

紙媒体の広報物について、多メディア展開に適するよう刷新を行った。

◆芸術人類学研究所 (IAA)

①研究プロジェクトと連動した大学内外における活動の推進と教育活動

オンライン開催と併用し、対面形式でのシンポジウム、特別講義等を開催した。

【各企画参加者数等実績】

・「素晴らしきアートブックの世界—美大で本を創る」

(2022年7月／対面・オンライン開催)、会場参加：35名、オンライン総視聴者数：305回
本学PBL科目「パーソナルパブリッシング」での成果から、アートブックの多様なかたちを追求する取組みを紹介した。

・「吉増剛造氏特別講義—なぞる こする ひっかく 歌と生命のカリグラフィー」

(2022年9月／対面開催／油画専攻、芸術学科との共催)、会場参加：158名

詩人の吉増剛造氏の講演・パフォーマンスのほか、本学教員5名との対話によるディスカッションを通じて、言葉と身体と表現の関係について考察を深めた。

・「第1回『記憶の道』シンポジウム：On the Road 越境するイメージ」

(2022年11月／対面・オンライン開催)、会場参加：105名、オンライン総視聴者数：860名／再生回数：546回(ライブ配信)、314回(アーカイブ配信 *終了後2週間限定)

「道」をひとつの入口にして、コロナ禍の経験とともに、各所員が「今現在」考えているアクチュアルな諸問題について、それぞれのテーマを交差させながら、学際的なクロスロードとも言える議論を展開した。

- ・「UNZEN—『平成の島原大変』：砂守勝巳と満行豊人をめぐって」

(2022年6月／アートテーク) 入場者数：991名 (14日間)、関連シンポジウム：74名

戦後初の大規模火山災害として知られる雲仙・普賢岳大火砕流をテーマに、人類にとっての自然災害をさまざまな表現の痕跡から考察し、新たな「災害記憶の継承」のありかたを模索する内容となった。本展に関しては、関連記事等の掲載やSNS等での感想投稿など、学内から多くの反響をいただいた。

②プロジェクト成果の学内への還元

「記憶の道」プロジェクト—全学開放シンポジウム開催

『Art Anthropology』第18号 (2023年3月) 発行

- ・ユーロ=アジアをつらぬく美の文明史—【大学美術館「博物館実習RⅡ」】
- ・エンタグメント・デザイン—【情報デザイン学科・「現代色彩論」】
- ・贈与と祝祭の哲学—【芸術学科・「民俗芸術論」「アジア思想史」】
- ・来るべき美術—【共通教育・「20世紀美術論」「現代美術ゼミ」】
- ・渚と森のフォークロア—【芸術学科・「芸術学Ⅲ」「映画の現在」】
- ・地場との交接—【グラフィックデザイン学科・「エディトリアルプロジェクト (境界芸術演習)」】
- ・行為の詩学—【芸術学科・「芸術人類学」】

③科学研究費助成事業採択課題一覧

- ・「エルミタージュ美術館所蔵『黄金の鹿』の神話と造形表彰—「生命再生の鹿角」の研究」(鶴岡真弓所長・基盤研究(C) [課題番号：17K02324])
- ・「現代美術の触覚的体験を用いた平和学習のメソッド構築」(港千尋所員・基盤研究(B) [課題番号：22H00630])
- ・「エトルリアを基軸とした文化的連続性と研究領域の確立」(金沢百枝所員・挑戦的研究(萌芽) [課題番号：21K18342])

(2) 管理運営面の推進計画

◆大学戦略室

①学校経営に関する企画と提案

「世界に存在感のある大学となる」という理事長ミッションに対して、具現化のためのアクションプランの検討を進めた。

②大学史資料を活用した展示及び今後の大学史編纂に向けた準備

大学史資料の調査・整理を進めた。

◆広報部

【広報課】

①広報メディアのクオリティアップ

「世界に存在感のある大学となる」「持続可能な社会に向けての取り組み」という観点

から『TAMABI NEWS』内で「留学で作る未来」を展開した。

さらにExperimental Workshop、Pacific Rim、Connecting Woolに関する内容を展開した。
募集広報上、最適な時期に発送できるよう大学案内の発行を4月に早めた。

大学ブランディング動画を制作した。

公式サイトをリニューアルした。

LINE、ツイッター、instagramなどの投稿による情報発信を強化した。

②大学広報の強化

●志願者獲得イベントなどの対応

- ・オープンキャンパス：参加者6,735名
- ・オンラインオープンキャンパス：参加者2,651名
- ・秋の進学相談会：参加者1,346名
- ・高校教員向け大学説明会の実施
- ・全国進学相談会への参加
- ・高校ガイダンスへの参加
- ・学校見学の対応

●TUBによる情報発信

- ・来場者数10,100名、参加者数7,795名、企業連携24社
- ・WEBサイト ユーザー数=47,000名

●アキバタマビ21

8企画の展示を行った。来場者数11,448名

●パブリシティ獲得にむけた情報発信の強化

26本のプレスリリースを配信した。

ページビュー：74,120、訪問者数(UU)：73,224

③学生募集広報の強化

2023年度入試の志願者が総数で108.0%、前年度比でアップした。

男性志願者数が過去10年で最も多く、比率においても33.2%と10年間で最も高かった。

【社会連携課】

①地域社会との連携・社会貢献活動として地域の大学コンソーシアムに加盟し、取り組みを実施

大学コンソーシアムの加盟や連携関係の構築など社会・地域との窓口的役割を果たした。
世田谷区選挙管理委員会「若者の投票率向上プロジェクト」、日本菓子専門学校「新しいお菓子体験をデザインする」など、課題解決型の連携を多く実現した。

②多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム(TCL)の運営と情報発信

メディア取材やリスティング広告の有効性もあり、每期80名前後(定員の約2.5倍)の多層な応募者を確保でき安定運営できた。

修了生インタビューをHPに掲載し、プログラムの質的発信に繋げた。

修了生の聴講制度を試行するなど、アルムナイとの関係を構築した。

TCLラボ活動として「関係性を生み出すデザイン」のトークイベント、ワークショップ等を開催した。

◆総務部

【総務課】

①事務組織の見直しによる体制の確立

ポータルサイトの導入、会議時のペーパーレス化及び会議資料のアーカイブ化を進め、理事長及び理事の意思決定サポート体制を整備した。

各委員会組織の権限・位置等の再点検を進め、現行規程の点検・改正及び制定を行った。学長交代に伴い、委員会と大学全体のPDCAサイクルの見直しを通じて、各種委員会の構成員などを見直した。

②情報共有化に向けた学内体制

ワークフローシステムの導入により、ペーパーレス化を推進、決裁速度を向上させた。勤怠システムについては、美術館、TUB、一部勤務時間が固定の非常勤嘱託を対象にするなど拡大を図った。また、全学的に安定した情報共有の一環として、情報推進課、メディアセンターとも調整をとりながら、本年度は八王子キャンパスのデザイン棟・絵画北棟・絵画東棟のネットワークを更新し、Wi-Fi等の大幅な通信速度向上を実現した。

③働きやすい職場環境の整備

職員全体では、超過勤務時間は前年度比約10%の削減となったが、休暇の取得には個人差が見られた。

課内については、超過勤務時間の削減、計画的な有給休暇の取得、在宅勤務の活用を図ることができた。

福利厚生については人事課への業務移管を進めており、キャンパスメンバーズなど契約を伴うものについては適切に更新、運用することができた。

④危機管理体制の確立

上野毛キャンパスの改修計画に伴い、危機管理上の課題についての検討が十分に進まず、避難訓練も実施できなかった。

学内サイトの「大規模地震対応マニュアル」を数年ぶりに更新し、新棟を含んだ新たなキャンパスに対応した避難経路図を作成・配置できた。

⑤上野毛キャンパスの再整備

駒沢通り拡幅については、キャンパス設計室と協働で世田谷区との折衝にあたり、契約の締結に至った。

プレハブ等の建設、新棟建て替えに関する工事監理については補助できたが、学内への情報共有には課題が残った。

施設・設備・備品管理及び八王子キャンパスとの連携については、一次的な処理は達成できているものの、改善や効率化などには至らなかった。

【庶務課】 ※2021年6月に八王子総務課から名称変更

①施設・設備の改修整備

空調機器の整備については、調整の上、予定通り実施できた。

その他の工事は予算を鑑みて調整を行い実施した。

②省エネルギーに伴う管理及びLED推進・段階的整備

省エネに伴うLED化を予定通り実施、満足度の高いものが設置できた。

学内状況の簡易分析を行い、見直しを図った。

前期にエネルギー使用過剰であったため節電を呼びかけ、後期には省エネを図ることができた。

③共通施設の充実と快適・安全性に配慮した環境整備

アメニティーについては、抜本的な見直しには至らなかった。

年間を通じナラ枯れ樹木の伐採を行ったが、管理計画策定には至らなかった。

他大学の防災訓練視察を行った。計画策定には至らなかったが、防火・防災対策は研究室への周知など一定の成果があった。

警備会社変更に伴う業務内容の確認・対応は実施できた。

④運営2年目を迎えた学生寮の管理整備対応

はじめて入居契約満期を迎え、その後の引越し入替え時期対策を、業者と協議し、清掃、備品クリーニングなどの対応を適切に行った。

コロナ対策については校医に確認の上継続的に実施した。

⑤業務の見直し

業務の洗い出しは行なったが、見直しには至らなかった。

物品購入等請求票の一部ムダな処理をあらため、方法の見直しを検討した。

学内倉庫について、不要備品の整理・処分を行い、スペースの確保と再配置を実施した。

【人事課】

①魅力ある職場づくりによる人材の確保

新卒採用については、説明会、面接試験に先輩職員を加え学生目線に近い選考を行った。

横断型プロジェクトについては、公募で2つのプロジェクトを実施した。

研修制度の見直しには至らなかった。

②人事制度の確立

自己申告制度を実施し、すべての専任職員の意向を確認した。

2023年6月の人事異動（ジョブローテーション）に向け、十分な引継ぎ期間を考慮して内示を行った。

専門職及びアソシエイト職の評価制度について見直しを行った。

360度評価（多面評価）の試行導入について提案を行った。

③人事システムの見直し

2022年3月から稼働した新人事システムについては、支障なく運用はできているが、従前のデータから移行が可能な項目、不可能な項目の精査が必要になっている。

財務部のシステムとの連携について今後検証が必要である。

④個人情報管理の徹底

共済、マイナンバー、各種届出など適切に個人情報の管理を行った。

⑤通報・相談等への迅速な対応

コンプライアンス通報、ハラスメント通報、各種相談に対して適切かつ迅速に対応した。

【情報推進課】

①学内システムの統合

学費システムの統合は、業務効率化を踏まえたワークフローの精査・チェックを前提に、システムの機能・コスト・業者対応の観点から、来年度以降の継続審議項目とした。

一般入試について、ワークフローと業務マニュアルを作成し課内で情報共有を行った。

施設予約システムを導入予定だったが、出席管理システムの更新が必要になることが判明したため、今年度の導入は見送りとした。

◆財務部

①会計システムの更新

会計システムを更新し、安定稼働させることができた。

本稼働のために部内で問題点の共有化を図り、支払手続、計算書類作成等について業務の効率化、財務報告の信頼性の向上を図ることができた。

②学納金管理システムの見直し

既存の業務フローの見直しを行い、部内で課題の共有化を図ることができた。

数社の学納金管理システムを検討したが、業務効率化までは至っていない。

③適格請求書（インボイス制度）の対応

インボイス制度を理解し、課内で課題・問題点の共有化を図ることができた。

制度開始までに事前準備の徹底を図りたい。

適格発行事業者登録申請手続きを行い、登録を受けることができた。

取引業者に対して適格請求書発行事業者の登録番号を収集するために調査を行い、登録番号の収集を図ることができた。

④財務の継続的な安定と、収入の基盤強化

寄付募集要項送付先を拡大し、寄付金の増加を図った。

資産運用収入は2019年度比11.4%増で微増に留まったが、寄付金は57.8%増と大きく増加し、ホームページへの「募金のお願い」掲載も効果が上がっている。

⑤予算制度のPDCAサイクルの確立

予算申請に対して、具体的な根拠を示しながら評価をしているが、制度としてPDCAサイクルの確立には至っておらず、予算科目の追加も検討段階である。

◆キャンパス設計室

①教育及び研究体制の整備と再点検

…大学基準協会の認証評価に指摘されている改善事項への取組

認証評価において、施設に関する目立った指摘事項はなく、これまでの方針及び取組を継続して施設計画を進めた。

八王子キャンパス展において、キャンパス計画のコンセプトやマスタープランの作成プロセスなど、これまで取り組んできた内容を記録・発表することで学内外への共有と施設計画の自己点検・評価に繋げた。

②専門性と総合性の融合を目指した改組による教育改革

・・・学科の改組検討、独立大学院の検討

学科の改組検討時に必要となる各科の専有面積や学生一人当たりの専有面積等について情報資料を纏め準備を行った。

独立大学院設置検討に対し、上野毛新棟新築計画にて一定のスペースを確保した。

③教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備のための措置

・・・上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携

両キャンパスを視野に入れたコストバランス調整に伴って、それぞれのプロジェクトを分割・再調整を行い計画を進めた。

都心に近い上野毛キャンパスでは、コンテンツ発表・創作活動の拠点となるよう、講堂スペースと新棟を合わせて多目的な利用方法が可能となるようプログラムした。

八王子キャンパスへの世界堂誘致に合わせて、急遽プレハブ建設を行い必要スペースを確保した。

八王子キャンパスでのグラフィック学科の面積不足に対し、デザイン棟増築計画を進め、設計を完了させた。

「彫刻棟群」「工作センター棟」の大規模修繕工事を実施した。

Ⅲ. 令和4年度 予算執行状況および財務状況

当期の予算執行および財務状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はホームページの「多摩美術大学について」→「会計・事業報告」をご参照ください)

1. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。
なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)		(単位:千円)		
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等納付金収入	7,788,605	7,788,666	△61	
手数料収入	248,862	248,862	0	
寄付金収入	12,000	12,736	△736	
補助金収入	645,302	684,508	△39,206	
資産売却収入	600,126	600,126	0	
付随事業・収益事業収入	250,848	241,047	9,801	
受取利息・配当金収入	65,000	78,356	△13,356	
雑収入	319,143	331,338	△12,195	
前受金収入	3,583,843	4,364,584	△780,741	
その他の収入	1,097,334	2,299,940	△1,202,606	
資金収入調整勘定	△4,126,150	△4,139,725	13,575	
当年度資金収入合計(A)	10,484,913	12,510,438	△2,025,525	
前年度繰越支払資金	14,389,753	14,389,753	0	
収入の部合計	24,874,666	26,900,191	△2,025,525	

収容定員数を確保しているため、安定的な財政基盤を維持できています。

多摩美サポーター募金による恒常的な募集により、前年度よりも寄付件数が増加しました。予算に対しても上回りました。

私立大学経常費補助金4億8,159万円、うち特別補助2,795万円(成長力強化に貢献する質の高い教育12万円、大学等の国際交流の基盤整備479万円、大学院等の機能の高度化2,304万円)の交付がありました。昨年度に対して一般補助は5,427万円減額し、特別補助は880万円増額しました。

国債3億円、銀行債2億円、財投機関債1億円の有価証券満期償還額です。

多摩美オーブ館の寮費等収入により補助活動収入が前年度より増加しました。

長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金から債券の新規購入による資産運用額を増額し、運用利回りを高めたことにより予算額及び前年度決算額を上回りました。

(支出の部)

科 目	予 算	決 算	差 異	
人件費支出	4,309,278	4,303,404	5,874	
教育研究経費支出	2,590,087	2,456,420	133,667	
管理経費支出	716,776	672,345	44,431	
借入金等利息支出	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	
施設関係支出	4,620,303	4,578,325	41,978	
設備関係支出	489,433	467,034	22,399	
資産運用支出	3,432,107	3,430,656	1,451	
その他の支出	348,330	348,328	2	
予備費	153,324	—	153,324	
資金支出調整勘定	△478,083	△608,725	130,642	
当年度資金支出合計(B)	16,181,555	15,647,787	533,768	
翌年度繰越支払資金	8,693,111	11,252,404	△2,559,293	
支出の部合計	24,874,666	26,900,191	△2,025,525	

退職金支出の増加(定年退職者の増加)により人件費が前年度より増額しましたが、予算額は下回りました。

前年決算額に対してウクライナ情勢の影響によるエネルギー資源の高騰で光熱水費が9,129万円、原材料価格の上昇等により消耗品費が3,925万円、修繕費が7,648万円の増加となりました。その他にも旅費交通費、奨学金、雑費等も増加しました。一方で、通信運搬費、衛生費等は減少し、予算額を下回りました。

八王子キャンパス…複合施設(予定)土地・建物取得、画材店ユニットハウス新築工事、ネットワーク改善工事、メディアホール吊物設備改修工事、絵画北棟FCU更新工事を実施しました。上野毛キャンパス…Cube新築工事、Mensa新築工事、1号館耐震補強工事等を実施しました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	△5,696,642	△3,137,349	△2,559,293
------------------	------------	------------	------------

減価償却引当特定資産を10億円増額(合計123億円)しました。多摩美サポーター募金により第3号基本金引当特定資産を増額しました。有価証券を新規に7億1千10万円購入しました。

上記により翌年度繰越支払資金が予算対比では増加、前年度決算額対比では31億3,735万円減額しました。

2. 事業活動収支計算

事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

【事業活動収支計算総括表】

(単位:千円)

	科目	予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,788,605	7,788,666	△61
	手数料	248,862	248,862	0
	寄付金	12,000	11,575	425
	経常費等補助金	645,302	645,292	10
	付随事業収入	250,848	241,047	9,801
	雑収入	318,568	330,751	△12,183
	教育活動収入計	9,264,185	9,266,193	△2,008
	人件費	4,287,705	4,262,045	25,660
	教育研究経費	3,610,087	3,460,132	149,955
	(うち減価償却額)	1,020,000	1,003,712	16,288
	管理経費	927,701	883,269	44,432
(うち減価償却額)	218,036	218,035	1	
徴収不能額	0	0	0	
教育活動支出計	8,825,493	8,605,446	220,047	
教育活動収支差額	438,692	660,747	△222,055	
教育活動外収支	科目	予算	決算	差異
	受取利息・配当金	65,000	78,355	△13,355
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	65,000	78,355	△13,355
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	65,000	78,355	△13,355	
教育活動外収支差額	503,692	739,102	△235,410	
特別収支	科目	予算	決算	差異
	資産売却差額	4,633	4,759	△126
	その他の特別収入	1,875	44,267	△42,392
	特別収入計	6,508	49,026	△42,518
	資産処分差額	9,568	7,567	2,001
	その他の特別支出	7,111	7,111	0
	特別支出計	16,679	14,678	2,001
特別収支差額	△10,171	34,348	△44,519	
予備費	329,515		329,515	
基本金組入前当年度収支差額比率(注1)	1.8%	8.2%		
基本金組入前当年度収支差額	164,006	773,450	△609,444	
基本金組入額合計	△4,906,600	△4,305,874	△600,726	
当年度収支差額	△4,742,594	△3,532,424	△1,210,170	
前年度繰越収支差額	△3,169,788	△3,169,789	1	
翌年度繰越収支差額	△7,912,382	△6,702,213	△1,210,169	
事業活動収入計	9,335,693	9,393,574	△57,881	
事業活動支出計	9,171,687	8,620,124	551,563	

退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。

職員人件費、退職給与引当金繰入額は前年度実績より増加しましたが、予算に対しては、予算額より下回りました。

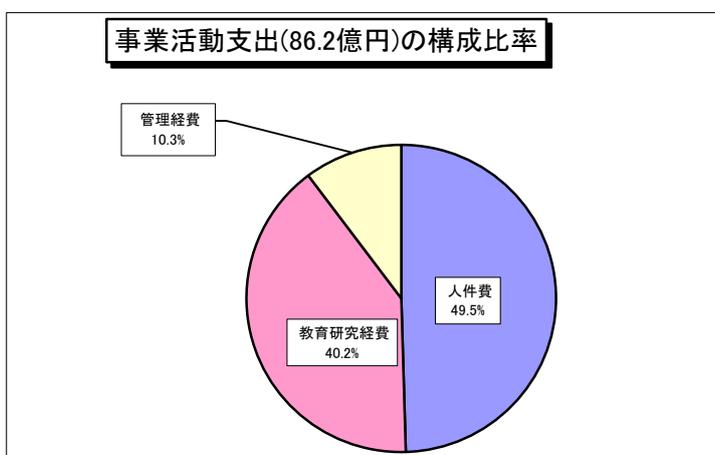
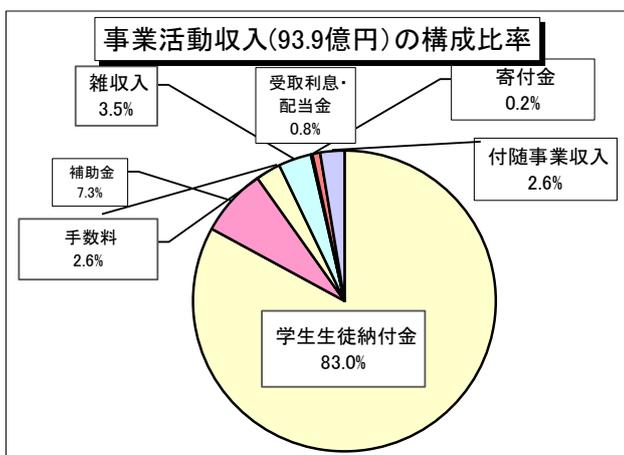
前年度実績比では、支払報酬手数料、修繕費、業務委託費、光熱水費等が増加しましたが、衛生費、厚生費等の減少により、全体額は予算を下回りました。

私立学校施設整備費補助金3,922万円、科学研究費補助金から購入された教育研究用機器備品の寄贈等により前年度実績及び予算額を上回りました。

図書の汚損・紛失・除籍による処分差額です。

上記の結果、事業活動収入は93億9,357万円となり予算を上回りました。また、基本金組入前当年度収支差額比率は前年度より4%下がり8.2%になりました。これは今後の継続的な施設整備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は△35億3,242万円となり、翌年度繰越収支差額は△67億221万円となりました。この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れや借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、長期的な改善を計り、今後も事業活動収支の均衡をとれた運営を目指します。

注1 基本金組入前当年度収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100



3. 貸借対照表

貸借対照表について前年度からの増減と5カ年推移を報告します。
(資産の部) (単位:千円)

科目		R4年度末	R3年度末	増減
資産	固定資産	64,165,262	59,497,452	4,667,810
	有形固定資産	40,568,934	36,737,289	3,831,645
	特定資産	20,991,804	20,265,217	726,587
	その他の固定資産	2,604,524	2,494,946	109,578
	流動資産	11,715,709	14,729,122	△3,013,413
合計		75,880,971	74,226,574	1,654,397

土地… 複合施設(予定)土地取得。
 建物… 複合施設(予定)建物取得、画材店ユニットハウス新築工事、八王子ネットワーク改善工事、メディアホール吊物設備改修工事、絵画北棟FCU更新工事他。
 教育研究用機器備品…八王子ネットワーク改善工事、4K液晶モニター7台1式、@tamabiVer.6サーハ機器類更新一式、大型上開き電気炉1台 他。
 その他… 図書、構築物、管理用機器備品、美術参考品、美術参考資料、建設仮勘定の取得。

(負債の部・純資産の部)

科目		R4年度末	R3年度末	増減
負債	固定負債	1,966,821	2,008,180	△41,359
	流動負債	5,268,891	4,346,585	922,306
	合計	7,235,712	6,354,765	880,947
純資産	基本金	75,347,471	71,041,598	4,305,873
	第1号基本金	68,194,901	63,665,122	4,529,779
	第2号基本金	6,294,337	6,519,625	△225,288
	第3号基本金	378,233	376,851	1,382
	第4号基本金	480,000	480,000	0
	繰越収支差額	△6,702,212	△3,169,789	△3,532,423
	合計	68,645,259	67,871,809	773,450
負債および純資産の部合計		75,880,971	74,226,574	1,654,397

「第2号基本金引当特定資産」残高は2億2,529万円減額し62億9,434万円となり、「第3号基本金引当特定資産」は寄付による基本金増より138万円の増額。「減価償却引当特定資産」残高は10億円増額し123億円。「退職給与引当特定資産」残高は退職給与引当金が4,136万円減の19億6,682万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学金基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し930万円と寄付金及び利付国庫債券による運用益115万円との差額815万円の減少。保有の有価証券は、引当特定資産分を含め60億3,950万円(2023/3月末現在の取得価額に対する評価はマイナス8,758万円)で前年度比1億486万円の増加。

(参考)

減価償却額の累計額	27,879,383	26,908,621	970,762
基本金未組入額	291,174	30,844	260,330

現金預金残高は前年比31億3,735万円減少し112億5,240万円。私立大学退職金財団交付金収入等の未収入金が8,788万円増加し3億5,225万円、前払金は2,679万円増加し1億89万円。

長期借入金残高は平成30年度から0円となり、退職給与引当金残高は312名分で4,136万円減額の19億6,682万円。

第1号基本金＝令和4年度の組入額(資産取得)50億4,866万円と前年度未組入れ高の組入れ分3,084万円の合計から当年度除却資産分の基本金組入額2億5,855万円と未払金による未組入れ分2億9,117万円を除いた45億2,978万円を組入れ。

(資産の部)

科目		R2年度末	H31年度末	H30年度末
資産	固定資産	57,888,187	57,021,808	55,273,964
	有形固定資産	37,625,443	35,794,484	34,975,920
	特定資産	17,766,146	18,750,763	17,726,921
	その他の固定資産	2,496,598	2,476,561	2,571,123
	流動資産	14,531,515	15,474,734	15,917,433
合計		72,419,702	72,496,542	71,191,397

(負債の部・純資産の部)

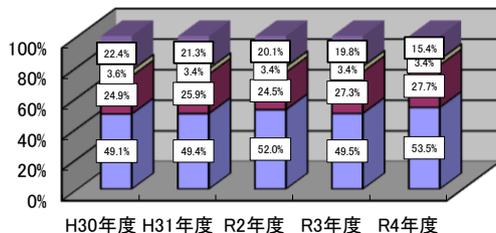
科目		R2年度末	H31年度末	H30年度末
負債	固定負債	2,001,862	1,978,841	1,949,124
	流動負債	3,680,685	4,577,271	4,419,327
	計	5,682,547	6,556,112	6,368,451
純資産	基本金	69,324,331	68,550,000	66,908,159
	第1号基本金	63,448,900	60,675,362	59,035,922
	第2号基本金	5,019,625	7,019,625	7,019,624
	第3号基本金	375,806	375,013	372,613
	第4号基本金	480,000	480,000	480,000
	繰越収支差額	△2,587,176	△2,609,570	△2,085,213
	合計	66,737,155	65,940,430	64,822,946
負債および純資産の部合計		72,419,702	72,496,542	71,191,397

(参考)

減価償却額の累計額	25,867,040	24,958,867	24,038,755
基本金未組入額	103,778	135,690	39,431

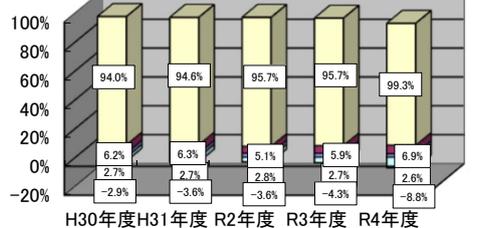
資産構成比率

■ 有形固定資産 ■ 特定資産
 □ その他の固定資産 ■ 流動資産



負債、純資産構成比率

■ 固定負債 ■ 流動負債
 □ 基本金組入額 □ 繰越収支差額



4. 財務比率<平成30年度から令和4年度>

※芸術系(20法人)平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】令和3年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	45.7%	45.0%	43.6%	44.4%	45.6%	51.7%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	52.9%	50.8%	50.5%	52.4%	54.7%	65.5%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	4.7%	6.2%	4.4%	7.6%	9.5%	10.6%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
基本金組入後収支差額比率	$\frac{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}{\text{事業活動支出}}$	▼	85.2%	107.3%	99.7%	107.7%	169.4%	103.7%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	77.6%	78.7%	79.9%	80.2%	84.6%	86.2%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	8.9%	9.0%	7.8%	8.6%	9.5%	10.9%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	6.2%	5.7%	6.7%	7.5%	6.9%	10.3%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	0.1%	18.6%	8.6%	18.5%	45.8%	12.6%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	100.0%	99.8%	99.8%	100.0%	99.6%	97.7%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	34.7%	35.8%	43.2%	36.1%	37.0%	34.7%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$	△	86.4%	88.5%	86.4%	84.7%	83.3%	78.9%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	-	17.7%	16.7%	14.4%	16.3%	14.2%	14.0%

*「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計 「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計 「運用資産」=現金預金+特定資産+有価証券

【比率分析の見方】

人件費比率=経常収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。

人件費依存率=学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。

管理経費比率=経常収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。

借入金等利息比率=低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備の借入金により比率が高かったが返済が進み平均値を下回った。

事業活動支出比率=人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。

基本金組入後収支差額比率=「事業活動収入-基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。100%を超えると支出超過。

固定資産構成比率=総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。

総負債比率=低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。

補助金比率=私立大学等経常費補助金の配分方法見直し、研究設備整備費等補助金などの積極的な取り組みにより増加。

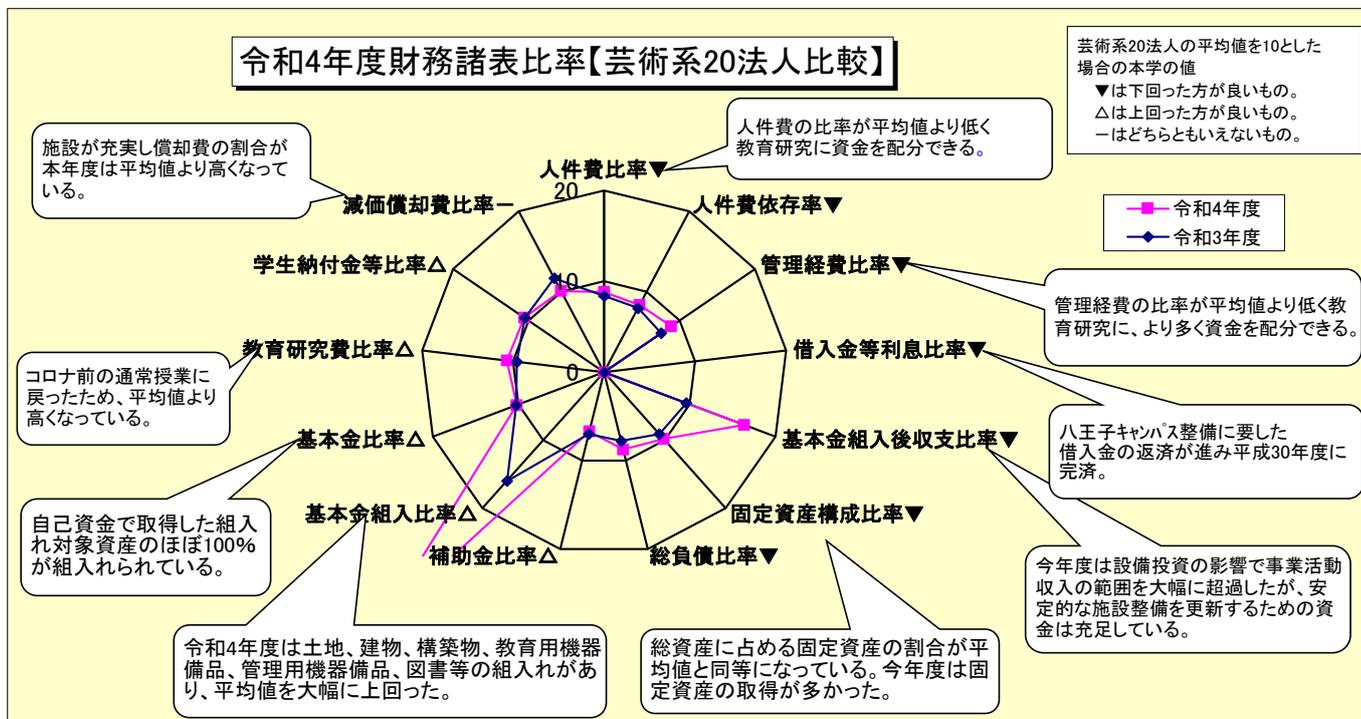
基本金組入比率=高い方が良いとされる。

基本金比率=基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。

教育研究費経費比率=経常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。

学生納付金等比率=経常収入の中で最もウェイトが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。

減価償却額比率=将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。



【まとめ】

令和4年度決算は、世界の経済情勢の直撃を受けた物価上昇、円安による急激なインフレの中で、経費面では近年にはない厳しい状況下となりましたが、学生寮の寮費収入も安定しました。また、学生納付金収入もほぼ予算通りとなりました。

基本金組入前当年度収支差額は例年のように10億円以上の維持が出来なかったものの、収支差額比率は8.2%を維持し堅調に推移しています。今後の課題としては、継続した学生数の確保等がありますが、安定した大学運営と施設設備計画の実行が可能な状態となっています。

財 産 目 録

令和5年 3月31日

I 資産総額		75,880,970,648 円
内 基本財産		40,606,691,642 円
運用財産		35,274,279,006 円
II 負債総額		7,235,711,698 円
III 正味財産		68,645,258,950 円

科 目	金 額	
資 産		
一 基本財産	(40,606,691,642 円)	
1 土地 (団地)	208,208.46 m ²	16,824,724,448 円
内 訳	(1) 上野毛キャンパス校地	16,118.66 m ² 10,600,000 円
	(2) 八王子校キャンパス校地	152,900.38 m ² 11,850,984,307 円
	(3) 美術館敷地	1,603.00 m ² 920,000,000 円
	(4) 学生寮敷地	11,640.35 m ² 1,407,402,657 円
	(5) 複合施設(予定)敷地	9,260.47 m ² 2,549,245,484 円
	(6) 山中純林苑敷地	11,929.00 m ² 80,620,000 円
	(7) 奈良飛鳥寮敷地	1,469.60 m ² 5,172,000 円
	(8) 野尻湖敷地	3,287.00 m ² 700,000 円
2 建 物	124,271.69 m ²	17,573,954,364 円
内 訳	(1) 校 舎	102,903.56 m ² 11,244,147,642 円
	(2) 図 書 館	6,738.99 m ² 1,126,058,261 円
	(3) 講堂・体育館	3,895.29 m ² 368,032,390 円
	(4) 学生会館	2,799.28 m ² 438,380,132 円
	(5) 寄 宿 舎	6,147.73 m ² 3,428,134,525 円
	(6) そ の 他	1,786.84 m ² 969,201,414 円
3 構 築 物	381 件	1,876,244,834 円
4 教育研究用機器備品	12,969 点	1,082,823,761 円
5 管理用機器備品	601 点	192,488,242 円
6 図 書	236,035 冊	1,543,236,828 円
7 美術参考品	8,712 点	1,386,964,511 円
8 美術参考資料	385 種	72,593,143 円
9 車 両	8 台	459,251 円
10 建設仮勘定	7 件	15,444,315 円
11 ソフトウェア	17 件	35,484,723 円
12 電話加入権	38 台	2,273,222 円

※土地および建物の面積は、登記上の数値による。

科 目		金 額
二 運 用 財 産		(35,274,279,006 円)
1 現 金 預 金		11,252,404,170 円
2 第2号基本金引当特定資産		6,294,337,189 円
3 第3号基本金引当特定資産		378,233,339 円
4 減価償却引当特定資産		12,300,000,000 円
5 退職給与引当特定資産		1,966,821,120 円
6 多摩美術大学創立80周年記念奨学基金 引当特定資産		52,412,332 円
7 有 価 証 券		2,557,086,668 円
内 訳	(1)利付国債	346,986,668 円
	(2)銀行債	1,000,000,000 円
	(3)事業債	1,110,000,000 円
	(4)ユーロ円債	100,100,000 円
8 差 入 保 証 金		9,679,720 円
9 未 収 入 金		352,248,788 円
10 前 払 金		100,888,165 円
11 立 替 金		10,167,515 円
資 産 総 額		75,880,970,648 円
負 債		
一 固 定 負 債		(1,966,821,120 円)
1 退職給与引当金		1,966,821,120 円
二 流 動 負 債		(5,268,890,578 円)
1 未 払 金		534,632,226 円
2 前 受 金		4,364,584,180 円
3 預 り 金		369,674,172 円
負 債 総 額		7,235,711,698 円
正味財産(資産総額－負債総額)		68,645,258,950 円